多くの自治体　柏崎刈羽原発再稼働に懸念の声
磯田市長　「現状では再稼働議論を始める条件も環境も整っていない」と表明
～支えるのは私たち市民の声と運動～

国と東電が柏崎刈羽原発再稼働の動きを強める中、多くの自治体から懸念の声があがっています。

磯田達伸長岡市長は、柏崎刈羽原発で冬期に事故が起きた場合に放射性物質がどう飛散するか、住民の被ばくがどうなるのか等に関するリアルなシミュレーションの必要性を強調。そして、原発の安全性や複合災害時の避難計画の実効性など、本当に大切な問題が積み残されているとし、現状では再稼働議論を始める条件も環境も整っていないと述べています。また、県内全30市町村でつくる「原子力安全対策に関する研究会」で長岡市の担当者は能登半島地震を踏まえ、次のように指摘しています。

「東電が自ら地層・断層を調査し、県民に説明すべきだ。その姿勢がないまま、燃料装荷に進み、再稼働の準備を着々と進めている。県民の理解や信頼を得るという点においてバランスを欠いている」と。

一方、柏崎市長や刈羽村長などは早期の再稼働を求め、「はて?」と思う言動を強めています。

今こそ「再稼働ノー」の市民の声を大きく広げる時です。

原発ゼロ長岡市民ネット結成13周年のつどい講師決定！

原子力市民委員会座長・龍谷大学教授

大島堅一さん（「原発をめぐるウソと真実」などを著し、メディアでも活躍）参加予定を！

※期日　11月9日（土）午後　※詳細は追ってお知らせ。

会員のみなさんへ　＜お願い＞

原発に関するあなたの思いやご意見など何でも、お寄せください。紙面での交流や運動に生かします。

＊同封の用紙に、原発について自由にお書き頂き、お近くの世話人に渡すか、郵送してください。

なお、郵送の場合は恐れ入りますが８４円切手を貼って投函くださるようお願いいたします。

（７月３１日締切）

5月の11日行動

３名の人がそれぞれ危険な原発への率直な思いを熱く語り、「柏崎刈羽原発再稼働をストップさせましょう」と街頭から訴えました。

原子力災害時の避難先へ行ってきました

原子力災害時の避難計画についての市の出前講座に参加したことがきっかけでした。

市の計画によると、私たちの住む地区の避難先は五泉市。避難経由所として①五泉市総合会館②五泉市営野球場③さくらアリーナ（村松体育館）の３か所となっています。どんなところ？どんなルートで行くの？…。実際に行ってみようということになりました。

実行日は桜満開の４月！快晴！（日頃の行いのご褒美◎）。車に乗り合わせて出発！三条、加茂を通過、スクリーニングの場所を「道の駅たがみ」に想定して向かいました。駐車場と並んでテントを模した屋根のカフェテラスがある。ここでスクリーニングする？除染する？トイレは並ぶか？冬は吹きっさらし？…思いを巡らす。そして五泉へ向かう。ちょっとした峠越えをする。くねくねした道を進みながら渋滞が目に浮かぶ。車中でのトイレ対策どうする？？自分の場合はバスの乗り合いだ。あらかじめ紙おむつはいて避難？備蓄してな～い！ワイワイがやがや・・・深刻。ぱっと開けた五泉市も桜満開！

３か所の避難経由所を巡り、短期滞在目線で視察。**「やっぱり現地を見ないと分からない」を実感！**

３千本桜の公園で楽しんだ「おむすびパーティー」の楽しかったこと！原発でメチャクチャにされてなるものか！再稼働許さない！

（N）

6月のアオーレ前宣伝行動は、6月11日（火）16時～16時30分です。ぜひご参加を！

原発ゼロ長岡市民ネットニュース
第１４６号　2024年５月２０日発行

連絡先　広井洋子　長岡市寿２－５－15
電話・FAX ０２５８－ ２４－２８７０
佐 藤　０９０-４９２５-３７０７